

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成21年11月11日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0874400310		
法人名	タカラケア 株式会社		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ	ユニット名	Aユニット
所在地	〒300-1631 茨城県北相馬郡利根町早尾字早尾台610-1		
自己評価作成日	平成21年6月25日	評価結果 市町村受理日	平成21年10月31日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	まだありません
-----------------	---------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年8月18日	評価確定日	平成21年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・ホーム全体に活気があり、笑顔の絶えない生活空間の維持が出来る。・地域密着型の特徴を活かし、地域の学校の運動会、敬老会等、地域住民との交流も深い。・地域や行政機関との繋がりができ、職員の定着も安定している。・医療機関との連携が出来ており、提携医療機関医との関係作りが密であり柔軟な対応が出来る。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>ホーム内は和やかで歌声が響き活気がある。 調理師資格のある職員が誕生会や正月の料理はもちろん毎日の食事が見た目にも美しく、食欲をそそる食事作りに努めている。 協力医療機関とは24時間対応できる関係を築き、利用者が入院しても早期に退院ができるよう支援している。 衛生面には特に注意を払い、共用スペースやキッチン、ドアノブに至るまで館内の消毒を毎日行い、感染症等を出さない対策をしている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた環境の中「明るく楽しく穏やかに」の介護理念を管理者、職員は常に共有し生活の継続が出来るよう取り組みを行っている。	「住み慣れた地域の中で、笑顔で、楽しく、穏やかに、心休まる生活が送れるよう、いつも私たちがそばにいます」の理念を玄関に掲示している。 理念の「楽しく」とはどういうことを指すのかなど会議で意味を掘り下げて話し合い、全職員が徹底するよう取り組むとともに実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の運動会や地域の敬老会の参加や地域のボランティアサークルの会などを招いてご家族や地域の方と一緒に楽しめる交流が行われている。	利用者は毎日ホーム付近を散歩し地域の人々と挨拶したりふれあい交流している。 利用者の友人が訪れたり、地域の夏祭りや小学校の運動会、敬老会へ参加するとともに、琴やハーモニカ、尺八などのボランティアが定期的に訪れるなど、楽しみながら地域と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅介護をされているご家族には、簡単な介護技術を伝えている。又、介護相談の受付をしており、地域の方々の相談にも対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を開催し、毎回民生委員、ご家族、自治会長等の出席を頂き、活発な意見交換の場となりサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は家族等の代表や自治会長、民生委員、町職員、ホームの役職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の現況報告やグループホームと地域との係わりなどについて建設的な意見が出され、出た意見をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に月1回、町の介護相談員の受け入れを行い、ケアサービス等の取組みを伝え、又、役場介護担当者との協力体制も出来ている。必要に応じて、問題事例の相談もさせて頂いている。	町職員に事業所の状況を報告したり、町からの情報やどのようにすれば地域の人々が訪問しやすいかなどの助言を得るほか、ケアサービスの質の向上を図るために毎月介護相談員を受け入れるなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ対策防止規程」を作成し、必要に応じて身体拘束ゼロ運営委員会を開催している。職員は具体的行為を正しく認識し、「身体拘束をしない」ケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束ゼロ対策防止規程を作成するとともに、事業所の役員や管理者をはじめ全職員で定期的に身体拘束ゼロ運営委員会を開催したり、身体拘束に関する確認表を使用するなど全職員が正しい認識のもと身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の研修はもとより、外部研修の参加を実施し、虐待にあたる行為の認識を良く理解し、見過ごし防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度に関しては、ホーム内の研修や外部研修で、学ぶ機会を設けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約に関しては十分な時間をとり、内容説明を行っている。ご家族様等の疑問点を尋ね又、感じた際には納得されるまで説明をし理解を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口及び外部申し立て機関が明示してある。又、意見箱を各ユニット玄関口に設置し、率直な意見を運営に反映できる体制になっている。	玄関に設置している意見箱にホームや町役場、国民健康保険団体連合会などの苦情相談受付窓口の電話番号を表記するとともに重要事項説明書に明記するなど、家族等の意見を汲みあげるよう取り組んでいる。 意見箱への投函が無いので、「家族との打ち合わせ記録」を利用者ごとに作り、家族等の意見を記録し日々のケアに反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行われているフロア一会議や個別面談において、運営方針を伝えている。又、職員からの意見や提案等も聞きながら運営に反映させている。	全職員で時には運営者を加え定期的に開催する会議において、職員の意見や提案を取りまとめ運営に反映させている。 管理者は職員が率直に意見を出し易い関係を日頃から築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に合わせたシフト変更や労働時間の変更を行い、その都度対応できるように調整に努めている。又、各自が基本行動評価票で自己評価をし、向上心が持てるように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修、外部研修において、認知症介護の専門職として勉強をしている。それぞれの自己評価を定めスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県やグループホーム協会の勉強会に積極的に参加し、近隣の介護施設とは相互に訪問しサービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでは、管理者が本人との関係作りに努めている。ご入居後は事前情報をもとに、職員はご利用者自身から良く話を伺いながら不安、要望等を傾聴し安心して生活の継続が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からのご要望が行き違わないように、相談窓口を一本化し、不安、要望等をその都度伺う機会を作り信頼関係が得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に今必要とされている支援の見極めと、それ以外の対応できるサービスの事例なども含め提示している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の準備・盛り付け・洗濯たたみ等、日常生活の中で職員と一緒にやっている。又、職員は昔ながらのやり方を教わり、一方的な立場に置かず生活を共にする関係作りが出来る。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会や外出、家族会、誕生会等での団らんの場を設け、ご利用者の希望や状態に合わせて、家族と連絡を取り合い日常生活の支援をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでもご家族や友人が来訪できるよう、面会時間等の制限は特に設けていない。又、地域の行事にも積極的に参加し、それぞれの馴染みの関係作りが出来ている。	利用者の親族など遠方から訪れる人にも対応できるよう、面会時間の制限を設けず家族等や友人が気軽に来訪できるよう配慮している。 墓参りや友人との外出に職員が付き添うなど、利用者のこれまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや共同の作業の場を設け、お互いに助け合ったり、声を掛け合ったりして、職員は和やかな雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後においても、ご家族様から連絡を頂くこともある。又、ホーム側からも定期的に訪問し、本人・家族の近況相談に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族、友人、ケアマネ等からの情報、もしくは、本人との会話の中から希望、意向の把握に努めている。	家族等や友人から利用者の情報を得るとともに、利用者との日常の会話から思いや意向の把握に努めている。 利用者の情報用紙から病歴、生活歴、私の意見・したいことなど一人ひとりの状況をよく把握し見極め、日々のケアに活かしている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居に際しては、本人、家族、担当ケアマネージャーの情報から、今までの生活状況や生活環境の把握に努めている。	/		/	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人なりの日課の中で、本人の出来る力を伸ばしながら、心身状態の把握に努めている。				
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を伺い、関係者やスタッフ全員で話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映したケアプランを作成している。	日々の支援の中で利用者や家族等から聞いた希望や出席可能な家族等と全職員で話し合い、一人ひとりに即した介護計画を作成するとともに定期的に見直している。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりのケース記録を作成し、職員間で情報を確認しながら、実践やケアプランの見直しを行っている。又、重要事項に関しては申し送りノートに記入し、介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安心して生活の継続ができるよう、家族の要望を伺い、病院でのムンテラ同席、早期退院の交渉等、柔軟なサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、ボランティアの方等に訪問してもらい、地域の方との関係を保つ支援をしている。又、消防署、警察等の連携体制も整っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期のかかりつけ医の往診を行っている。又、認知症専門医とも密接に連絡ができる体制も出来ている。普段の体調変化においても、24時間直接医師から指示が受けられる体制も整っている。	利用者が希望するかかりつけ医への受診は、職員が付き添い支援するとともに、その結果を家族等に電話等で報告している。 毎月協力医療機関の往診があるほか、24時間指示が受けられる医療体制や訪問歯科医の治療が受けられるほか、認知症専門医と連携し随時相談ができる体制となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気軽に提携医療機関の看護師と相談ができ、細かな医療的な見地に立った日常生活支援を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者、家族の希望を踏まえ、治療方針、ムンテラ立ち会いや、早期退院に向け、医師または医療相談室長とも相談できる体制が整っている。又、退院後のフォローアップができる様体制が出来ている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用者の将来のあり方に関しては、日々の生活の中から確認をしている。又、家族の思いを十分な面談の中で確認をしている。ホームで出来る事への理解も頂き、医療機関との連携の中で支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合における指針を作成し、全職員が共有している。 心身の状態の変化に伴って重度化した場合は家族等と同意書を交わすとともに、ホームの方針を共有している。 看取りの体験は無いが、今後は看取りも視野に入れている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署の指導のもとに応急手当の講習会を開催し、発生時に備えている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害や地震・水害を想定し、消防署の指導のもとに避難訓練を実施している。又、非常食の備蓄も行っている。</p>	<p>消防署の協力のもと年2回職員の役割を決め避難訓練を実施しているが、地域の協力を得るまでには至っていない。 5トンの飲料水や保存食を備蓄している。</p>	<p>災害対策には地域の協力を得ることが重要であり、運営推進会議や自治会長を通して地域の人々の協力が得られるよう働きかけることを期待する。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者一人ひとりのプライドを十分に配慮し、利用者のあるがままを受け入れた対応をしている。職員は守秘義務を理解し徹底している。	職員は「10人いれば10人の姿あり」の考え方で利用者一人ひとりの人格を尊重し対応している。 職員は語調に注意し大声は出さないなど、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに注意をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は常に穏やかな対応で、ご利用者が何を希望されているのか良く聞き、本人主体の決定が出来るよう支援をしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆるやかな日課はあるものの、職員の都合を優先する事なく、利用者の生活のペースを尊重し、希望に沿った支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は本人の希望を伺い、定期的に馴染みの美容院や移動美容室で整髪が出来るよう支援している。又、身だしなみは本人の希望を尊重している。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は栄養バランスを考え、バラエティーにとんでいる。利用者と一緒に調理をしたり、盛り付け等にも積極的に参加して頂いている。食後の下膳、お膳拭き等も楽しみながら協働している。ベランダでのランチ食等、季節を感じて頂く為の行事食にも力を入れている。	職員は冷凍食品を一切使用せず、時には自家菜園で採れた食材を活用したり、利用者と共に献立作りや調理、盛り付けをするなど、楽しみながら食事ができるよう支援している。 天候の良い日は景色を眺めながらベランダで食事を楽しんだり、誕生会や正月などは特別献立で家族等を交えて食事をしている。 持病のある利用者には別メニューを提供するなど、安心して食事ができるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつや飲み物は、一人ひとりの嗜好を考慮しながら、可能な限り手作りをしている。水分は三度の食事を含め1日1,500cc以上を目標に支援している。又、水分量、食事量は個々のケース記録に記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に応じた口腔ケア後、職員が義歯のケアを支援している。又ポリデント洗浄も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートを作成し、個々のパターンを把握し、声かけ・前誘導を行い、トイレでの排泄や自立に向けた支援をしている。	排泄チェックシートを利用し時間を見計らってトイレ誘導したり、一人ひとりのサインを把握しトイレ誘導するなど、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は高齢者が便秘から及ぼす影響を周知しており、食物繊維の多い食品や乳製品を多く取り入れた食事の提供をし、1日1,500cc以上の水分摂取や、毎日のリハビリ体操を取り入れ、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご利用者は入浴日は決まってはいるが個々に対応できるようにしている。希望があれば毎日の入浴も出来る。ご利用者がゆっくりと入浴が楽しめるよう配慮している、	入浴は毎日可能で時間帯も午前、午後問わず利用者の希望にそって対応できるようにしている。 入浴できなかった利用者には足浴をするなど、2日に1回は誰もが入浴するよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣から居室内での昼寝又はリビングの和室で休息が出来るよう支援している。入床時刻はそれぞれの利用者に合わせている。又、居室の室温は職員が調節し、冬期は湯たんぽを使用し、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服薬している薬の目的や副作用、用法、用量について理解し、誤薬を防ぐ為に服薬時には本人の前で薬袋の名前、食前、食後と本人を確認し、服薬支援を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に応じて、得意な献立の調理や洗濯ものたたみ、植木の水やり等、張り合いや役割意識が持てるように支援している。又、利用者が得意とする事を教えてもらい、「頼りにされている」と感じられる取り組みをしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の健康状態を把握し、出来る限り散歩・買い物等の支援をしている。歩行困難な方は、車椅子を利用して外出しホームにこもらないようにしている。	職員は近くの農産物直売所へ利用者の買い物に付き添ったり、季節の花見、大型店での買い物、外食など利用者が日常的に外出できるよう支援している。 天候の良い日には車イスの利用者がホーム近辺を散歩できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理されている方、又は家族よりお小遣いを預かっている方等、本人の希望があれば外出時や散歩時において、買物を楽しませている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者は自由に手紙のやり取りができ、希望に応じて電話をかける支援や取り次ぎの支援もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには心地よい音楽が流れ、季節の草花が飾られている。全館バリアフリーの設備で四カ所あるトイレは全て車椅子対応となっている。職員は大声や大きな音で利用者の混乱を招く事を周知しており、穏やかな対応を常に心がけている。	居間には季節の花を飾ったり、静かな心地よい音楽を流したりして、寛ぎやすい雰囲気を出している。 掘り炬燵やソファを設置するなど、利用者が過ごし易いよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、廊下のベンチ、窓際に置かれたテーブル、利用者同士又は独りでソファに座り、ゆっくりと読書や新聞を読む等思い思いに過ごせる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれの利用者の生活歴や馴染みの物が置かれてあり、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	職員は仏壇やテレビ、家族等の写真など利用者の好みの物を活かして居心地よく暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建屋はバリアフリーになっており、廊下やトイレには手摺りが設置され、各居室にはご利用者の目線に合わせネームプレートがついている。又、電源コンセントの位置にも工夫がされている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームひなたぼっこ

作成日 平成21年11月5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策には地域の協力を得る事が重要であり各自治会長をとおして地域の方々の協力が得られるよう働きかける。	災害時に地域の方々の協力を得て被害を最小限となる取り組みを行って行きたいと思えます。	運営推進会議において各自治会長に協力を得て避難総合訓練に地域の方々の参加を頂けるよう働きかける。	平成22年5月を目標とする。
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。